現場の先生方と連携して研究するということ ①

　このたび、研究推進委員会より思いもかけないご連絡をいただき、「現場の先生方と連携して研究すること」について書かせていただくことになりました。日々、未熟さを痛感する身としては、皆様にお伝えできることなどあるのだろうかと不安でしたが、このあたりで、これまでの研究を振り返ることも大切かと思い直し、挑戦してみることにいたしました。３回の連載のスタートとなる今回は、これから研究をはじめられる研究者の方に向けて、「現場の先生方と連携して研究すること」について考えてみたいと思います。

　近年は、学校や社会のニーズに応え得る研究が求められる傾向にあり、特に教員養成大学、教育学部の教員には、その責務があるともいえるでしょう。自分の研究関心が、学校教育にどのように貢献できるのかという視点を常に持つとともに、学校現場に関わろうとするアクティブな姿勢が必要だと思われます。
　例えば、カリキュラム研究を専門とする研究者であれば、学校の課題に即したプログラム開発につなげることで、教育実践に寄与することが可能になります。また、心理学を専門とされる研究者の方であれば、児童生徒の心理的発達に関する知見をもとに、学校におけるキャリアカウンセリングの方法や内容を検討することも可能ではないでしょうか。いずれにしても、このような研究を進めるにあたっては、児童生徒等の実態を踏まえることが何よりも大切になり、日々教育実践にあたられている先生方の知見が、不可欠と思われます。
　私は現在、教育委員会や学校現場の先生方と連携・協働して、教職ガイダンスに関する研究を行っています。具体的には、教職志望者（高校生や大学生など）への教職ガイダンスについて検討し、プログラムを開発・評価するという実践研究を重ねています。改めて、自身の研究を振り返ると、現場の先生方と研究を進めるにあたって意識していることが、３点あることに気がつきました。それは、１）お互いのリソースを活かす研究計画を立てる（計画）、２）理論と実践を往還しながら研究を進める（方法）、３）現場の教育実践に役立つ成果を目指す（結果）、という３つです。
　まず、１）“お互いのリソースを活かす研究計画を立てる”、に関しては、先行研究のリサーチ、文献調査や質問紙調査の実施・分析は研究者が、教育実践

に直接的に関わる部分は現場の先生方に関わって頂くといったように、両者のリソースを最大限に活かせる計画づくりに努めています。次に、２）“理論と実践を往還しながら研究を進める”、については、例えばカリキュラム分析などの理論的な研究をベースに、授業実践等の実践的なアプローチを取り入れるようにしています。理論研究には限りがありませんが、あえて理論研究にとどまらずに、理論研究と実践的な研究とを往還しながら、研究を進めるように心がけています。最後に、３）“現場の教育実践に役立つ成果を目指す”、については、特に連携している先生方にとって役に立つアウトプットを生み出すことを目標にしています。例えば、教材開発など日々の教育実践で活用できる成果につながれば、研究者と先生方の双方にとって、そして何よりも子どもたちにとっても、意味ある連携となると考えるからです。

　実際には、研究としてまとめるに至るには難しいことも多々ありますが、そのような困難を含めて、先生方と思いを共有できるのは、大変ありがたいことです。現場の先生方との研究は、研究室に閉じこもっていてはできません。先生方とともに、「教育実践に寄与する」という姿勢で、常に現場意識を持って研究に取り組むことが大切ではないかと思います。

（奈良教育大学　河﨑智恵）